

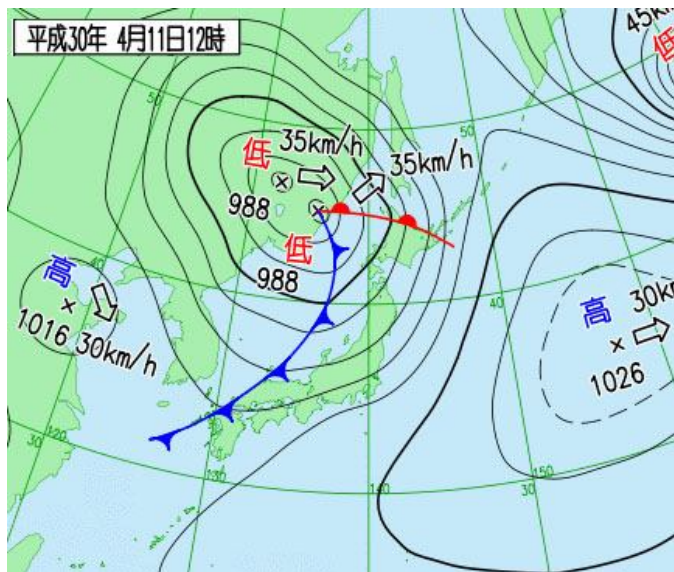
## 「春の嵐とケヤキ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

4月11日はよく晴れていたが、一日中、非常に風が強かった。「春の嵐」といわれるものだ。5年生の教室は4階なので、校舎に当たった風が唸り、その音で怖い思いをした子どもも多かった。



この「春の嵐」をもたらしたのは、沿海州を東に進む、前線を伴った低気圧である。温帯低気圧は通常、温暖前線(赤線)と寒冷前線(青線)を伴う。それに挟まれた南側(天気図ではおよそ $90^\circ$ )が暖気、それ以外の北側(およそ $270^\circ$ )が寒気である。この日の午前中、東京は前線に挟まれた暖気の中にあり、高気圧から低気圧に向かって吹き込む、強い南風にさらされていた。南風だったので、気温は高かった。大学の正門脇にあるケヤキの大木も、風に大きく揺れていた。



このケヤキは、小学校の児童玄関を出た目の前にある。若葉をつけたケヤキの梢は激しく揺れ、時折枝先が折れて、葉を落としていた。



児童玄関前にも、ケヤキの若葉がたくさん落ちていた。葉が単独で落ちているものは少なく、ほとんどは、枝についたまま落ちている。しかもよく見ると、葉の付け根に、何か実のようなものも見える。何だろう？

